

グローバルOBD II  
故障診断アプリケーション  
Version 1.1

取扱説明書

## ご利用の前に

- ・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
- ・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。



### 警告

- (1) 故障診断機本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断器本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。  
※ 火災の原因となります。



### 注意

- (1) 本アプリケーションは故障診断機専用です。他メーカーの診断器には使用できません。  
※ 診断器本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。
- (2) 本アプリケーションはOBD II 適応車専用です。OBD II 適応外の車両には使用できません。  
※ OBD II 適応外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
- (3) 車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。
- (4) 販売元で認定している故障診断機用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。  
※ 診断機本体の誤作動や故障の原因となります。
- (5) 診断器本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。  
※ アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態ではCFカードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
- (6) CFカードを抜いた状態で故障診断機を長時間、放置しないでください。  
※ CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。
- (7) CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。  
※ 故障の原因となります。
- (8) CFカードを挿入する時は、診断器に向きを合わせ挿入してください。  
※ 向きを間違えると故障の原因となります。
- (9) CFカードを分解、改造しないでください。  
※ 故障の原因となります。
- (10) CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。  
※ 故障の原因となります。
- (11) CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。  
※ 故障の原因となります。
- (12) CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。  
※ 故障または接触不良の原因となります。
- (13) ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。  
※ ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

# 目 次

1.	サポート範囲	1
1.1.	対象車種	1
1.2.	診断項目	1
1.3.	使用言語	1
2.	準備	2
2.1.	接続	2
2.2.	各種設定	2
3.	操作	3
3.1.	車両故障診断/点検メニュー	3
3.2.	車両故障診断メニュー	4
3.3.	初期化通信	5
3.4.	システム選択メニュー	6
3.5.	システム診断メニュー	7
3.6.	ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検	8
3.6.1.	ダイアグコードの点検	8
3.6.2.	ダイアグコードのクリア	9
3.6.3.	フリーズフレームデータの点検	10
3.7.	現在のデータ表示/保存	11
3.7.1.	データ表示	12
3.7.2.	ランモード	13
3.7.3.	ホールドモード	14
3.7.4.	レンジ変更	15
3.7.5.	トリガ設定	16
3.7.6.	データ保存	17
3.8.	O2センサモニタテスト	18
3.8.1.	O2センサの選択メニュー	18
3.8.2.	O2センサモニタテスト表示	18
3.8.3.	テスト項目解説表示	19
3.9.	オンボードモニタテスト	20
3.10.	仮コードの点検	21
3.11.	車両情報表示	22
3.12.	メーター表示	23
3.12.1.	メーター表示項目選択メニュー	23
3.12.2.	メーター表示	23
3.13.	保存データの表示	24
3.14.	画面保存データの表示	25
3.15.	画面保存データの表示	27
4.	アナログ-ECU同時計測	28
4.1.	対応機能	28
4.2.	接続	28
4.3.	操作	29
4.3.1.	車両故障診断メニュー	29
4.3.2.	計測設定	30
4.3.3.	同時計測表示例	31

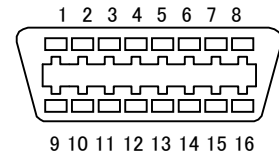
# 1. サポート範囲

## 1.1. 対象車種

### (1)診断可能条件

本アプリケーションは、下記に示すすべての条件を満たすOBD II 適応車のコントロールユニットで故障診断を行なうことができます。

- ・ 国際標準規格の診断コネクタ(SAE J1962のコネクタ)を装備した車両。
- ・ K-LINE (7番端子)、CAN(6番、14番端子)で故障診断通信を行なうコントロールユニット
- ・ 12Vバッテリーの車両



[国際標準規格診断コネクタ]

## 1.2. 診断項目

本アプリケーションは、「1.1.対象車種」に記載の条件を満たす車両に対して、下記診断機能をサポートしています。

<サポート診断機能>

診断対象システム	参照頁
診断機能	
ダイアグコードの点検	3.6.1
ダイアグコードのクリア	3.6.2
フリーズフレームデータの点検	3.6.3
現在のデータ表示/保存	3.7
O2センサモニタテスト	3.8
オンボードモニタテスト	3.9
仮コードの点検	3.10
車両情報表示	3.11
メータ表示	3.12


## 1.3. 使用言語

本アプリケーションは、日本語のみを対象としています。

## 2. 準備

### 2.1. 接続

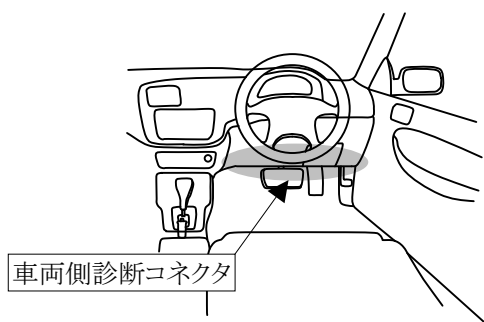
(1) 診断車両が対象車種(「1.1.対象車種」参照)であることを確認してください。

	<b>注意</b>	対象車種以外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
---	-----------	-------------------------------------

(2) 診断器の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。

(3) 診断器にダイアグケーブルを接続してください。

(4) 車両のイグニッションスイッチがOFFであることを確認し、下図を参考にして車両側診断コネクタにダイアグケーブルを接続してください。



(5) 車両のイグニッションスイッチをONにします。

### 2.2. 各種設定

故障診断を実行する前に「ダイアグモニタメニュー」より「ダイアグモニタの設定」を実行して、以下の項目を設定してください。設定方法等に関しては、診断器本体の取扱説明書をご参照ください。

項目	設定内容
日付・時刻の設定	日付時刻が違っていたら正しく設定しなおしてください。
キープッシュ音	キーを押した時のプッシュ音を設定してください。
単位の設定	国際単位系であるSI単位に設定してください。 [SI単位] 速度            km/h 温度            ℃ 圧力                kPa 空気流量            g/s

### 3. 操作

#### 3.1. 車両故障診断/点検メニュー

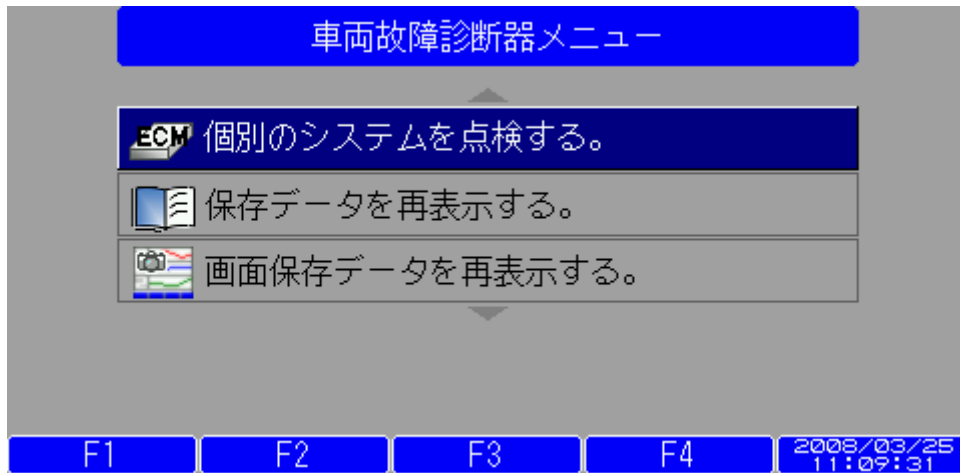
「ダイアグモニタメニュー」で「車両故障診断/点検をする」をYESで選択すると、車両故障診断メニューを表示します。



このメニューで「グローバルOBD2」をYESで選択してください。

「グローバルOBD2」を選択すると「アプリケーションロード中... しばらくお待ちください」と表示されます。CFカード内のアプリケーションを実行する準備を行なっていますので、電源を切らずに数秒間お待ちください。

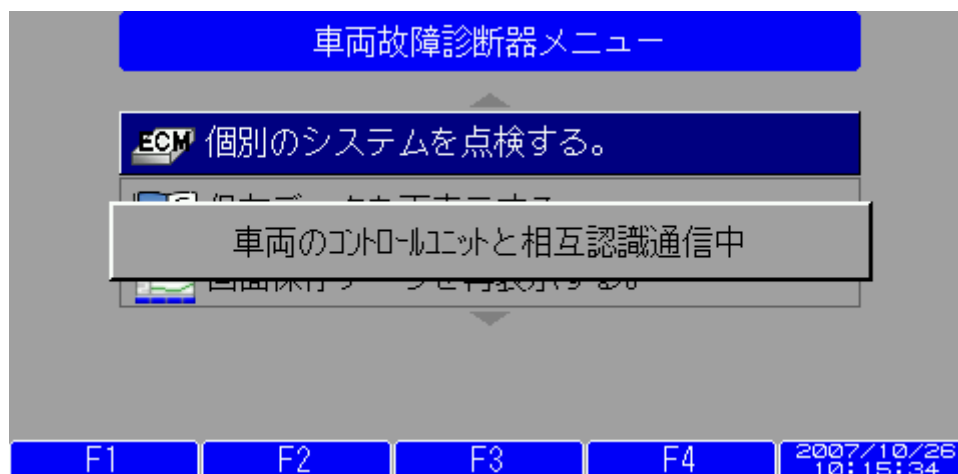
### 3.2. 車両故障診断メニュー



メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
個別のシステムを点検する	「3.3.初期化通信」
保存データを再表示する	「3.13.保存データの表示」
画面保存データを再表示する	「3.14.画面保存データの表示」

### 3.3. 初期化通信



「個別のシステムを点検する」を選択後、車両と通信して車両搭載のコントロールユニットから情報を取得します。1つ以上のコントロールユニットからの情報取得に成功した場合、「システム選択メニュー」を表示します。情報取得に失敗した場合、「診断可能システムなし」画面を表示します。この場合以下の原因が考えられますので、それらを確認後再度実行してください。

- ① イグニションスイッチONの確認
- ② 故障診断コネクタの接触不良およびケーブル断線の確認
- ③ ダイアグケーブルとの接続の確認。
- ④ 診断対象車種の確認



### 3.4. システム選択メニュー



情報取得に成功したコントロールユニットから取得した識別IDと、識別IDより判別したシステム名称をメニュー表示します。診断するシステムをYESで選択してください。

システムを選択すると、故障診断を実行するための準備として車両と再度初期化通信を行いません。選択したシステムとの初期化通信に成功した場合、「3.5.システム診断メニュー」を表示します。

〈システム、識別ID一覧〉

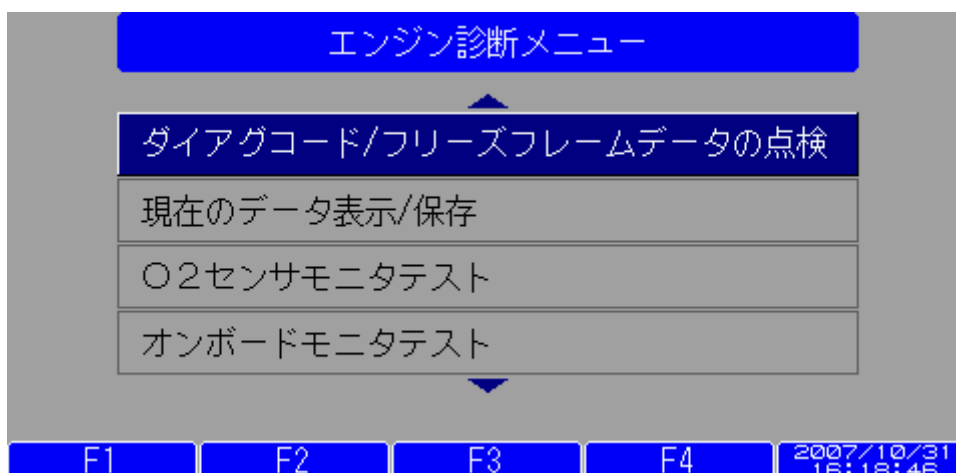
システム名 (メニュー表示項目)	識別ID (2桁)	識別ID (3桁)	診断対象コントロールユニット
エンジン	\$10～\$17	\$7E8	エンジン制御系コントロールユニット
トランスミッション	\$18, \$19 \$1A, \$1B \$1C, \$1D \$1E, \$1F	\$7E9	トランスミッション制御系コントロールユニット
パワートレイン	\$00～\$09 \$0A, \$0B \$0C, \$0D \$0E, \$0F \$20～\$FF	\$7EA \$7EB \$7EC \$7ED \$7EE \$7EF	その他パワートレイン系のコントロールユニット

※ 識別IDとシステム名称の定義はカーメーカーによって異なります。

※ エンジンとATの統合制御コントロールユニット場合、「エンジン」「パワートレイン」のいずれかで表示されます。

### 3.5. システム診断メニュー

「3.4.システム選択メニュー」で選択したシステムで診断が可能な機能を表示します。



メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検	「3.6.ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検」
現在のデータ表示/保存	「3.7.現在のデータ表示/保存」
O2センサモニタテスト	「3.8.O2センサモニタテスト」
オンボードモニタテスト	「3.9.オンボードモニタテスト」
仮コードの点検	「3.10.仮コードの点検」
車両情報表示	「3.11.車両情報表示」
メーター表示	[3.12.メーター表示]
保存データを再表示する	「3.13.保存データの表示」

### 3.6. ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検

#### 3.6.1. ダイアグコードの点検

車両が記憶しているダイアグコード(故障コード)を取得し表示します。「検出コード」の欄に表示されているダイアグコードにカーソルを移動させると、そのダイアグコードの検出条件が画面左の「検出条件」の欄に表示されます。

ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。

ダイアグコード (DTC) 表示	
検出コード	検出条件
P0108 吸気圧/大気圧センサ系統高入力	
ダイアグコード数 : 1	
F1 DTC消去   F2 フリーズフレームデータ表示   F3   F4 画面保存   2007/10/26 11:39:08	

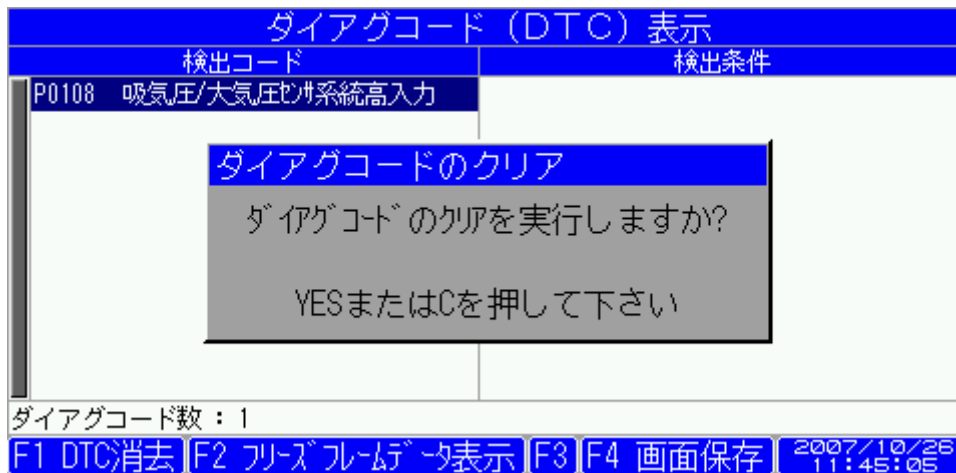
#### <操作方法>

↑/↓	画面左のカーソルを移動します。
F1	「3.6.2.ダイアグコードのクリア」
F2	「3.6.3.フリーズフレームデータの点検」 仮コードの点検から実行した場合、このキーは無効となります。
F4	画面のハードコピーを保存します。
YES/C	前の画面に戻ります。

※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

### 3.6.2. ダイアグコードのクリア

車両に記憶されているダイアグコードをクリアします。



#### <操作方法>

YES	ダイアグコードのクリアを実行します。
C	処理を中止し「3.6.1.ダイアグコードの点検」に戻ります。

※ ダイアグコードのクリアでエラーとなった場合は、エンジンをOFFしてもう一度実行してください。

### 3.6.3. フリーズフレームデータの点検

故障(ダイアグコード)が発生した時の車両の動作状態を保存したデータ(フリーズフレームデータ)を取得し表示します。

項目	値
フリーズコード	P0108
燃料系1の状態	OPEN(運転)
負荷計算値	100.0 %
エンジン冷却温度	95 °C
短期燃料調量 #1	0 %
長期燃料調量 #1	-5 %
インテークマニホールド絶対圧	177 kPa
エンジン回転数	845 r/min
車速	0 km/h
吸気温度	43 °C
絶対スロットル位置(開度)	10.2 %

F1      F2      F3      F4 画面保存      2007/10/26 11:39:47

#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

### 3.7. 現在のデータ表示/保存

現在のデータ表示機能では、表示項目をカテゴリーに分けて表示します。  
表示モード選択メニューにより、表示したい項目のカテゴリーを選択してください。



YESを押すと、「3.7.1.データ表示」を実行します。表示項目は選択したメニュー項目により、以下絞り込まれます。

メニュー項目	内容
全データの表示	全ての表示項目を表示します。
アナログデータの表示	数値データのみを表示します。
システムステータスの表示	「ON/OFF」、「完/未完」などステータス項目のみを表示します。
O2センサ系データの表示	O2センサに関する項目のみを表示します。

### 3.7.1. データ表示

データ表示には、下図のように数値データ表示、グラフ1表示およびグラフ2表示の3種類の表示形式があります。

#### 数値データ表示

項目	値	最小	平均	最大
DTC数	1	1	1	1
MIの点灯状態	ON	-	-	-
ミスマッチモタ	完	-	-	-
燃料系モタ	完	-	-	-
一般構成部品モタ	完	-	-	-
ヒータ付ヒータ付モタ	無	-	-	-
ヒータ付ヒータ付モタ	無	-	-	-
蒸発ガス防止装置モタ	無	-	-	-
2次空気導入装置モタ	無	-	-	-
空調制御装置冷媒モタ	無	-	-	-

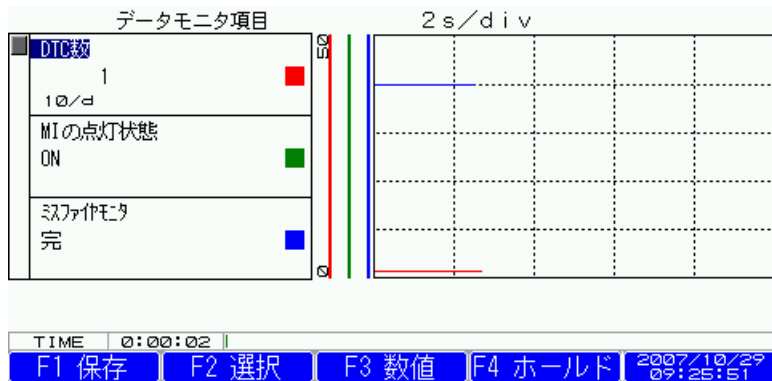
TIME 0:00:03 |

F1 保存 | F2 選択 | F3 グラフ | F4 ホールド | 2007/10/26 11:40:12

#### グラフ1表示



#### グラフ2表示



また、データ表示には、「ランモード」、「ホールドモード」の2つの表示モードがあります。

ランモード	車両よりリアルタイムに取得したダイアグデータを表示するモードです。 操作方法に関しては「3.7.2.ランモード」をご参照ください。
ホールドモード	ランモードによって取得し記憶されたデータを以前にさかのぼって表示することができるモードです。 操作方法に関しては「3.7.3.ホールドモード」をご参照ください。

### 3.7.2. ランモード

#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	選択の設定/解除を行ないます。
S	<p>ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。</p> <p>数値データ表示時</p> <p>F1 保存   F2 選択   F3 グラフ   F4 ホールド</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>F1 クリア   F2 トリガ   F3   F4 画面保存</p> <p>グラフ1表示時</p> <p>F1 保存   F2 選択   F3 グラフ2   F4 ホールド</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>F1 クリア   F2 トリガ   F3 レンジ   F4 画面保存</p> <p>グラフ2表示時</p> <p>F1 保存   F2 選択   F3 数値   F4 ホールド</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>F1 クリア   F2 トリガ   F3 レンジ   F4 画面保存</p>
C	「3.5.システム診断メニュー」に戻ります。
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。










#### <ファンクションキー>

保存	ランモードで記憶されたデータを保存します。詳細は「3.7.6.データ保存」をご参照ください。
選択	YESで選択され「*」が付けられた項目のみに絞り込んで表示します。
数値	数値データ表示に切り替えます。
グラフ	グラフ1表示に切り替えます。
グラフ2	グラフ2表示に切り替えます。
レンジ	グラフ1表示またはグラフ2表示時、レンジの変更が可能となります。操作方法に関しては「3.7.4.レンジ変更」をご参照ください。
ホールド	ホールドモードに移行します。
トリガ	トリガ設定を実行します。詳細は「3.7.5.トリガ設定」をご参照ください。
クリア	現在選択中の項目をすべて選択解除にします。
画面保存	画面のハードコピーを保存します。



### 3.7.3. ホールドモード

#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←	前(過去)のデータを表示します。 グラフ表示の場合、グラフカーソルが左に移動します。
→	次のデータを表示します。 グラフ表示の場合、グラフカーソルが右に移動します。
YES	選択の設定/解除を行ないます。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 数値データ表示時    グラフ1表示時    グラフ2表示時   
C	「3.5.システム診断メニュー」に戻ります。
F1~F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

#### <ファンクションキー>

保存	現在ホールド中のデータを保存します。詳細は「3.7.6.データ保存」をご参照ください。
選択	YESで選択され「*」が付けられた項目のみに絞り込んで表示します。
数値	数値データ表示に切り替えます。
グラフ	グラフ1表示に切り替えます。
グラフ2	グラフ2表示に切り替えます。
レンジ	グラフ表示時、レンジの変更が可能となります。操作方法に関しては「3.7.4.レンジ変更」をご参照ください。
スタート	ランモードに移行します。
トリガ	トリガ設定を実行します。詳細は「3.7.5.トリガ設定」をご参照ください。
クリア	現在選択中の項目をすべて選択解除にします。
画面保存	画面のハードコピーを保存します。

### 3.7.4. レンジ変更

グラフ表示時、ファンクション「レンジ」を実行すると、時間軸を変更することができます。

#### <操作方法>

←/→	レンジの変更を行いません。
F4	変更したレンジを確定し、ランモードを実行します。
YES	変更したレンジを確定し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。
C	レンジ変更を中止し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。

### 3.7.5. トリガ設定

データ表示では、ランモード時「エンジン回転速度が何回転以上になった時」等の条件で自動的にデータをホールドすることができます。

トリガを設定するには、数値データ表示もしくはグラフ表示でファンクション「トリガ」を実行してください。



#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←/→	設定の変更を行ないます。
YES	設定したトリガを確定し、「トリガ」が実行されたモードを再実行します。
C	トリガ設定を中止し、「トリガ」が実行されたモードを再実行します。

#### <トリガ設定値>

トリガ	OFF	トリガの設定を解除します。
	コード	コードトリガ。「DTC数」が変化した場合にトリガとします。
	レベル	レベルトリガ。「項目」の値が「レベル」を「スロープ条件」でまたいだ場合にトリガとします。
項目	レベルトリガの対象となる項目を選択します。 ランモード時画面に表示されている項目と画面外で選択されている項目が選択できます。	
スロープ条件	↑	レベル値以下からレベル値を超えた場合にトリガとします。
	↓	レベル値以上からレベル値未満になった場合にトリガとします。
	↑/↓	レベル値をまたいだ場合すべてをトリガとします。
レベル	レベルトリガのレベル値を設定します。	
表示ポイント	1/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸1/5点にして表示します。
	2/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸2/5点にして表示します。
	3/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸3/5点にして表示します。
	4/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸4/5点にして表示します。
ホールド時間	0s	トリガが発生したらすぐにホールドします。
	30s	トリガが発生してから30秒後にホールドします。
	60s	トリガが発生してから60秒後にホールドします。

### 3.7.6. データ保存

ランモードによって取得したデータを、CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

項目	値	最小	平均	最大
DTC数	1	1	1	1
MIの点灯状態	OFF	-	-	-
ミスファイモタ	無	-	-	-
燃料系モタ	無	-	-	-
一般構成部品モタ	無	-	-	-
キャタライザモタ	無	-	-	-
ヒータ付キャタライザモタ	無	-	-	-
蒸発ガス防止装置	無	-	-	-
2次空気導入装置モタ	無	-	-	-
空調制御装置冷媒モタ	無	-	-	-

現在のデータ表示/保存  
データを保存しますか？  
YESまたはNOを押して下さい

TIME 0:00:12

F1 保存 F2 選択 F3 グラフ F4 ホールド 2007/10/26 14:27:37

#### <操作方法>

YES	データ保存を実行します。
NO	データ保存を中止し、「データ保存」が実行されたモードを再実行します。

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。

※ 保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

項目	値	最小	平均	最大
DTC数	1	1	1	1
MIの点灯状態	OFF	-	-	-
ミスファイモタ	無	-	-	-
燃料系モタ	無	-	-	-
一般構成部品モタ	無	-	-	-
キャタライザモタ	無	-	-	-
ヒータ付キャタライザモタ	無	-	-	-
蒸発ガス防止装置	無	-	-	-
2次空気導入装置モタ	無	-	-	-
空調制御装置冷媒モタ	無	-	-	-

現在のデータ表示/保存  
データを保存しました。  
エンジン 2007 / 10 / 26 14:27  
YESを押して下さい

TIME 0:00:21

F1 保存 F2 選択 F3 グラフ F4 スタート 2007/10/26 14:27:48

#### <操作方法>

YES	「データ保存」が実行されたモードを再実行します。
-----	--------------------------

### 3.8. O2センサモニタテスト

#### 3.8.1. O2センサの選択メニュー

車両が記憶しているO2センサモニタテスト結果を取得し表示します。  
O2センサの選択メニューにより、表示したいセンサを選択してください。



YESを押すと、「3.8.2 O2センサモニタテスト表示」を実行します。

#### 3.8.2. O2センサモニタテスト表示

「3.8.1 O2センサの選択メニュー」で選択されたセンサのテスト結果を表示します。

O2センサ バンク1 センサ1 テスト結果			
項目	テスト値	下限値	上限値
リン判定電圧	1.275 V	---	---
リッチ判定電圧	1.275 V	---	---
Low判定電圧	1.275 V	---	---
High判定電圧	1.275 V	---	---
リッチ→リン時間	1.02 sec	1.02	1.02
リン→リッチ時間	1.02 sec	1.02	1.02
最大電圧	1.275 V	1.275	1.275
最小電圧	1.275 V	1.275	1.275
センサ移行時間	10.2 sec	10.2	10.2

F1 テスト項目解説 | F2 | F3 | F4 画面保存 | 2008/02/04 08:35:37

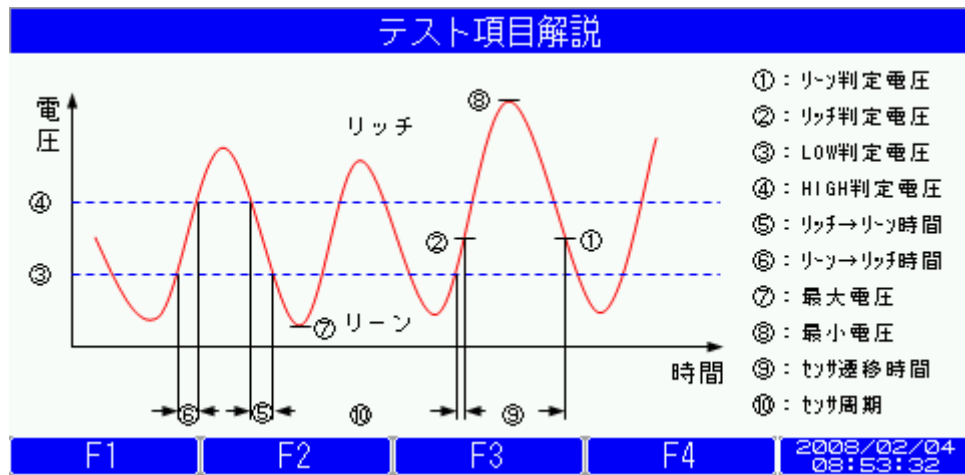
#### <操作方法>

C	前の画面に戻ります。
F1	「3.8.3.テスト項目解説表示」を表示します。
F4	画面のハードコピーを保存します。

※ 上限値、下限値の情報が無い項目は上限値、下限値欄が「---」と表示されます。

### 3.8.3. テスト項目解説表示

各テスト項目の判定位置(例)を表示します。



#### <操作方法>

C/S	前の画面に戻ります。
-----	------------

### 3.9. オンボードモニタテスト

車両が記憶しているオンボードモニタテスト結果を取得し表示します。

項目	テスト値	下限値	上限値	判定
MID:\$01 O2センサ #11 TID:\$01 リン判定電圧	4096	0	65535	OK
MID:\$01 O2センサ #11 TID:\$02 リン判定電圧	4.096 V	0.000	65.535	OK
MID:\$01 O2センサ #11 TID:\$75 (不明なテスト)	0.625 lambda	0.750	1.999	NG
MID:\$85 TID:\$0B	True	---	---	NG
MID:\$AD 失火 シリンダ #12 TID:\$FF (不明なテスト)	-4096	0	-8190	NG

F1 F2 F3 F4 画面保存 2008/01/30 17:44:20

#### <操作方法>

C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

※ 取得したオンボードモニタテスト結果のデータによってはテスト情報がアプリケーションソフトに登録されておらず、項目名や単位が表示されないか「不明なテスト」と表示される場合があります。その場合のテスト情報はカーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

### 3.10. 仮コードの点検

車両が記憶している仮コード(ペンディングコード)を取得し表示します。「検出コード」の欄に表示されている仮コードにカーソルを移動させると、その仮コードの検出条件が画面左の「検出条件」の欄に表示されます。

仮コードが発生していない場合、「仮コード無し」を表示します。

仮コード表示	
検出コード	検出条件
P0480 冷却ファン制御系統	
仮コード数 : 1	
F1 DTC消去	F2
F3	F4 画面保存
2008/03/28 10:12:32	

#### <操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
F1	「3.6.2.ダイアグコードのクリア」
F4	画面のハードコピーを保存します。
YES/C	前の画面に戻ります。

- ※ 取得された仮コードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。
- ※ ダイアグコードには1回のドライビングサイクル(イグニッションスイッチON～走行～イグニッションスイッチOFF)における故障検知で警告灯を点灯させるコードと、連続した2回のドライビングサイクルで故障検知した場合に初めて警告灯を点灯させるコードがあります。仮コードとは、その2回連続故障検知で警告灯を点灯させるトラブルコードでの1回目の故障検知時に記憶される故障情報のことです。



### 3.11. 車両情報表示

車両に記憶されている車体番号(VIN)や搭載ECUの情報を取得し表示します。

項目	値
VIN	1G1JC5444R7252367
キャリアレシジョンID #0	JMB*36761500
キャリアレシジョンID #1	JMB*4787261111
キャリアレシジョン ヴァリファイ #0	1791BC82
キャリアレシジョン ヴァリファイ #1	16E062BE
ECU名称	PCM-Powertrain Ctrl

F1      F2      F3      F4 画面保存      2008/01/30  
18:02:44

#### <操作方法>

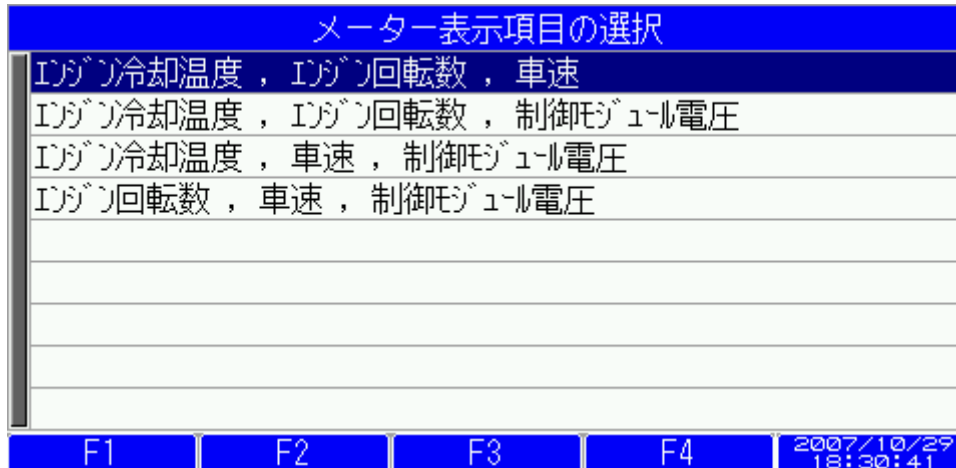
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

### 3.12. メーター表示

データ表示項目「エンジン冷却温度」「エンジン回転数」「車速」「制御モジュール電圧」のモニタ値をメーター形式でリアルタイム表示します。

#### 3.12.1. メーター表示項目選択メニュー

メーター表示は3つの項目を同時表示します。表示する項目の組み合わせを一覧から選択してください。



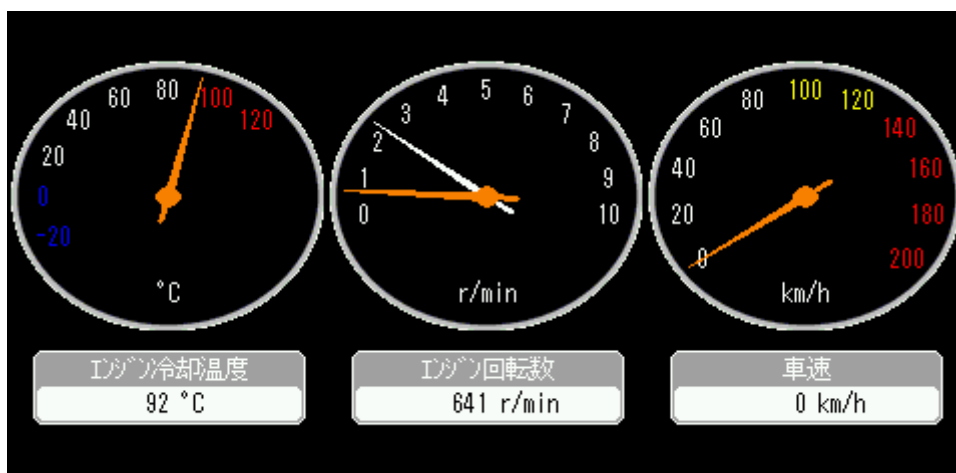
※ 診断車両によっては、全ての表示対象項目に対応していない場合があります。その場合、対応している項目のみがメニュー表示されます。

#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行いません。
YES	カーソル上の組み合わせで「3.12.2.メーター表示」を実行します。
C	前の画面に戻ります。

#### 3.12.2. メーター表示

「3.12.1.メーター表示項目選択メニュー」で選択された項目をメーター表示します。



#### <操作方法>

C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。









## 4. アナログ-ECU同時計測

本アプリケーションは、診断機本体に拡張計測ボードを装着することにより、電圧計測データ(アナログデータ)と車両データ(ECUデータ)を同時表示することができます。(アナログ-ECU同時計測)

アナログ-ECU同時計測について以下に示します。

### 4.1. 対応機能

アナログ-ECU同時計測で対応する機能を以下に示します。

#### <アナログ-ECU同時計測対応機能>

診断機能	参照項
車両故障診断メニュー	4.3.1
計測設定	4.3.2
現在のデータ表示/保存	4.3.3
保存データの再表示	4.3.3

※ 上記以外の機能についてはアナログ-ECU同時計測の対応はありません。

### 4.2. 接続

(1) 診断機本体に拡張計測ボードが装着されていない場合は、診断機の電源がOFFであることを確認し、装着してください。

拡張計測ボード 形式 : Measure KIT  
品名コード : 51400391

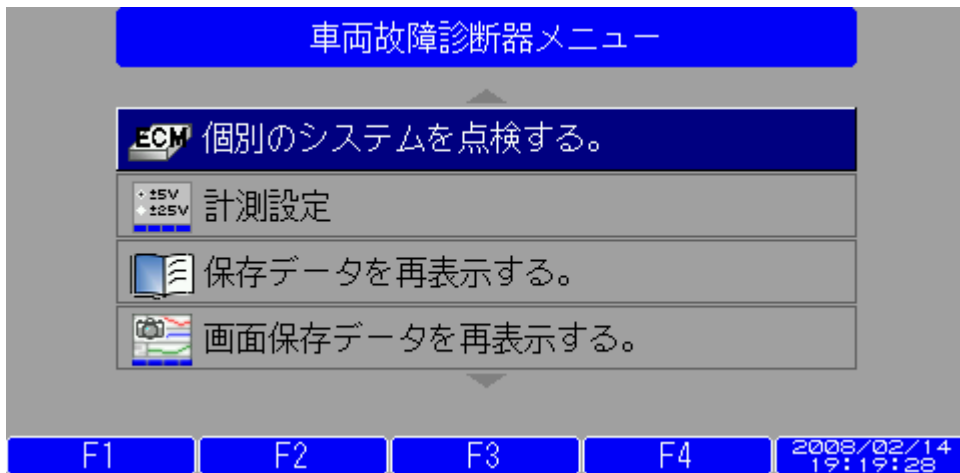
(2) 計測用プローブ、プローブボックス、診断機を接続してください。

(3) 診断機の電源をONにします。

## 4.3. 操作

### 4.3.1. 車両故障診断メニュー

診断機本体に拡張計測ボードが装着されている場合のみ「計測設定」メニューを表示します。  
車両故障診断メニューの操作方法につきましては「3.2.車両故障診断メニュー」をご参照ください。



「計測設定」メニューをYESで選択すると、「4.3.2.計測設定」を実行します。



### 4.3.2. 計測設定

計測設定では、同時計測あり/なし、アナログハードレンジ(拡張計測ボードの電圧計測レンジ)、サンプリング周期の設定を行ないます。



#### <操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←/→	設定の変更を行ないます。
YES	設定を確定し、「4.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。
C	設定を中止し、「4.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。

#### <計測設定値>

同時計測	なし	アナログ-ECU同時計測を行ないません。
	あり	アナログ-ECU同時計測を行ないます。
CH1 レンジ	チャンネル1のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH2 レンジ	チャンネル2のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH3 レンジ	チャンネル3のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH4 レンジ	チャンネル4のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
サンプリング周期	アナログ計測のサンプリング周期を50～100ミリ秒(10ミリ秒きざみ)で設定します。	

※ 「CH1 レンジ」～「サンプリング周期」は同時計測ありの場合のみ設定できます。

### 4.3.3. 同時計測表示例

同時計測ありの場合、データ表示において項目の先頭にアナログデータを表示します。  
 アナログデータは「CH1」、「CH2」、「CH3」、「CH4」で表示します。  
 以下に同時計測の数値データ表示、グラフ1表示およびグラフ2表示の例を示します。  
 現在のデータ表示/保存、保存データの表示において同様の画面を表示します。  
 操作方法につきましては同時計測なしの場合と同じです。

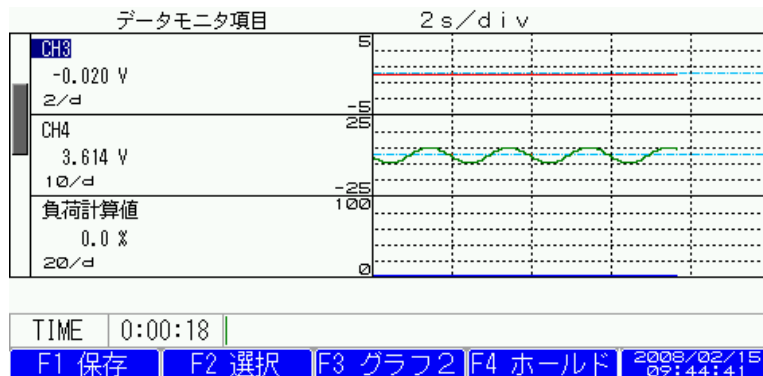
数値データ表示

項目	値	最小	平均	最大
CH1	-4.909 V	-4.909	-4.909	-4.899
CH2	-0.050 V	-0.050	-0.037	0.000
CH3	-0.010 V	-0.010	-0.002	0.010
CH4	-0.050 V	-0.050	0.007	0.050
DTC数	0	0	0	0
MIの点灯状態	OFF	-	-	-
ミスファイモタ	完	-	-	-
燃料系モタ	完	-	-	-
一般構成部品モタ	完	-	-	-
トリガモタ	無	-	-	-

TIME 0:00:03  
 F1 保存 F2 選択 F3 グラフ F4 ホールド 2008/03/27 15:05:04

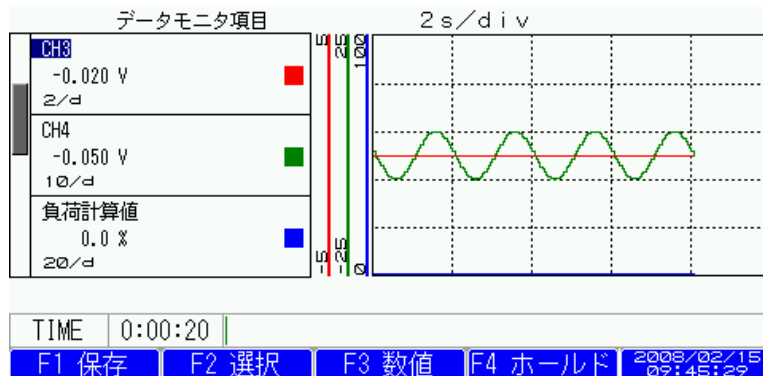
アナログデータ

グラフ1表示



アナログデータ

グラフ2表示



アナログデータ

「トリガ設定」ではアナログデータをトリガ設定できます。アナログデータは「CH1」、「CH2」、「CH3」、「CH4」で表示します。

**【注意】**

データ表示において非測定チャンネルに信号が表示されることがありますが故障ではありません。  
 非測定チャンネルにも信号を入力すると正確に表示されます。

## ■お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、故障診断機キットに同梱されています  
故障診断機本体取扱説明書のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

# グローバルOBD II 故障診断アプリケーション Version 1.1 取扱説明書

---

2008年 3月 初版発行

---

本書の内容の一部、または全部を販売元の許可なく複写、複製、転載することを禁じます。